

「古代集落跡の様相が徐々に明らかに」

かみじゅくだい

おおあらく

## 上宿台遺跡・大荒久遺跡

# 香取遺産

Vol.31



▲上宿台遺跡空中写真（上）、復元された土器（下）

上宿台遺跡と大荒久遺跡は、牧野地区にある古墳時代から平安時代にかけての集落跡です。

市教育委員会では、都市計画道路仁井宿与倉線道路改良事業に伴い、平成19年度に2遺跡合わせて約4500㎡の発掘調査を行いました。

発掘調査の結果、古墳時代後期から平安時代の堅穴住居跡57軒、掘立柱建物跡6棟など、多くの遺構が見つかりました。

堅穴住居跡はすべて方形で、大きさは一辺9.5mから2.5mのものまで小さまぎまでですが、時代が新しくなると小さくなる傾向が見られます。床面に柱穴を4カ所穿ち、北側の壁

にはカマドを付設していません。また、小型の住居では柱穴がないものも少なくありません。

掘立柱建物は、整地面に直接柱穴を掘って建てた建物ですが、調査では柱穴だけが方形または長方形に並んで見つかるだけです。上宿台遺跡からは、古墳時代

後期の大型の建物跡が発見されました。東西11m、南北5.5mで、計32個の柱穴が見つかりました。このような大型建物跡は、一般

の集落跡で発見されることは少なく、市内では2例目となります。集落の中でも特別な建物であったと考えられます。

物が、整理箱で約100箱出土しました。土器は、煮炊き用の甕、穀物などを蒸すための甑、盛り付け用の坏や高坏など多様です。中には、赤い顔料を塗ったもの（赤彩土器）や、墨で文字を書いたもの（墨書土器）も見られます。

土器の多くは、千数百年の間、土の中に埋まっていたため、割れて破片になって出土しました。現在、土器の破片を接合して元の形に復元し、足りない部分を石膏などで補充する作業を行っています。地道な作業ですが、作業が進むにつれ、当時の人々の生活の様子が徐々に明らかになってきます。